

三佛寺本堂耐震補強工事



工事現場	横浜市旭区本村町 76 - 4 宗教法人 三佛寺
設計・工事監理	株式会社 ナインマンズ一級建築士事務所
施工	有限会社 松本社寺建設
工期	平成 16 年 3 月 1 日 ~ 同 7 月 31 日

本工事は安芸構造計画事務所の構造計算データに基づく耐震補強案のご指導もおおぎ、設計・施工いたしました。

なお、本資料は、竣工時に行われた「三佛寺本堂耐震補強工事」現場見学会にて配布した資料を基にしております。
ご参考になれば幸いです。

三佛寺本堂耐震補強工事の特徴

特徴その1 床下連結・トラス補強

土台基礎部分強化のため、床下柱を木材で連結し、金物で固定しました。
さらに柱構面にトラス（筋交い）をはめました。



床下施工前写真



床下施工後写真



床下施工前写真



床下施工後写真



床下施工前写真



床下施工後写真



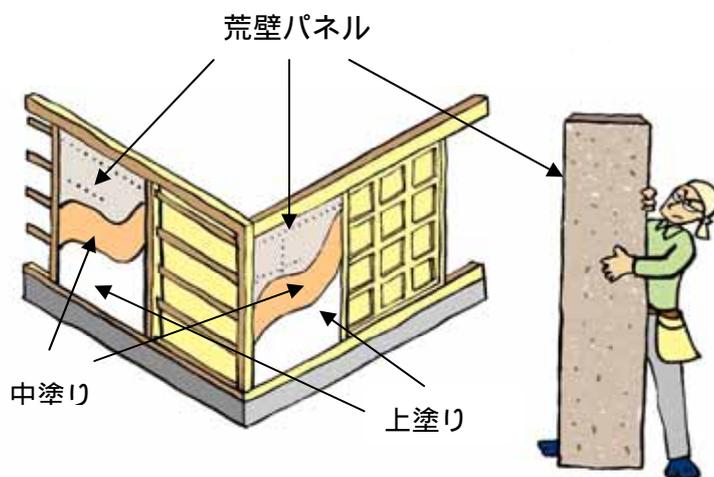
床下施工前写真



床下施工後写真

特徴その2 東日本初 荒壁パネル使用

京都を中心に西日本で大好評の荒壁パネルを使用しました。従来1年以上かかっていた荒壁の乾燥期間が不要となり工期の短縮が可能となりました。



壁の骨組み



構造用合板取付け



荒壁パネル取付け



中塗りの様子



中塗り



漆喰仕上げの耐震壁完成

特徴その3 面格子壁作成 はめこみ

地震の際の縦揺れ横揺れによる歪み・倒壊を防ぐため、本堂の壁に面格子をはめ込みました。3寸角(約9センチ四方)の芯去り桧角材を格子に作成し建具の外側・新規作成耐震壁の外側にはめ込みました。



製作中の面格子



面格子はめ込み作業

壁倍率の規定に追加された面格子壁

面格子壁は、日本の伝統的な木造建築物における建具としてなじみ深いものです。通風、採光を確保しながら、外から内への視界をさえぎる面格子壁は、屋外と室内空間へと連続的に移行する日本家屋のフィルターとしての役割を果たしてきました。

国土交通省構造耐力性能検証実験の結果、平成14年度、軸組と同等以上の耐力を有する壁構造として、国土交通大臣が定めた構造方法に、土塗壁・落とし込み板壁とともに面格子壁も壁倍率の規定に追加されました。強度が立証された、地震に強い面格子壁です。

